

## 国語

「話すこと・聞くこと」、「読むこと」、「言語についての知識・理解」の三つの観点は正答率が全国平均とほぼ同じ結果であった。「書くこと」の観点の正答率は、全国平均をやや上回る結果である。しかし、「文脈に即して漢字を正しく読む」、「事象や行為などを表す多様な語句について理解する」、「書いた文章を互いに読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意してかく」など、言語に関する問題に課題が見えた。今後、文章中での語句や漢字の使い方を確認しながら読むこと意識し、知識の定着を図りたい。

## 数学

「数量や図形などについての知識・理解」の観点の正答率は全国平均を上回る結果であったが、「数学的な見方・考え方」、「数学的な技能」の観点の正答率はいずれも全国平均を下回る結果となった。しかし、「平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明する」問題に関しては、全国平均を大きく上回る正答率であった。その他、図形の問題ですべて全国平均を上回る結果となっていたので、引き続き力を伸ばしていきながら、数学的な見方や考え方、技能を伸ばしていきたい。

## 生活

生活習慣（朝食・起床・就寝）に関しては8割以上の生徒が規則正しい生活習慣を送っており、全国の中学生と同じ分布である。学習については、勉強時間も全国平均とほぼ同等である。全国の中学生より割合が高かった項目は「地域との関わりに関する項目」である。「地域行事に参加している生徒の割合」や「地域社会をよりよくするために考えている生徒の割合」が全国と比べて高いことが分かった。学校教育目標の1つである「地域と関わりを大切にすることを育てる」という目標の成果が表れている。逆に全国の中学生よりも割合が低かった項目は「自分の思っていることを言葉に表すことができているか」や「他人と意見を交換したり、話し合ったりするか」の項目が全国の中学生と比べて低かった。新型コロナウイルスの感染拡大により、活動時間や活動の制約が厳しくなり、授業中や授業外において生徒とのコミュニケーションの機会は確実に減少していることが感じられる。これもコミュニケーションの力が伸び悩んでいる一因にもなっていると考えている。ChromebookなどのICT機器におけるコミュニケーションツールを活用し、現状で実施可能な非接触型の新しいコミュニケーション方法を考えていく必要がある。